



## 発刊に寄せて

NPO法人 北海道食の自給ネットワーク

代表 藤崎 史夫

一九九八年に北海道食の自給ネットワークが準備会として発足し十年が経ちました。この節目を迎えるに際して記念誌をまとめたいという声上がり、二月の十周年記念交流会にあわせて発刊されることになりました。

発足当初三十人ほどの参加者で生産地へ出かけた体験ツアーから始まった事業も翌年にはフォーラムそして大豆・小麦トラストと広がり、現在では会員数は二百名を超えるまでになりました。会員の構成が生産者・消費者のみならず流通・加工分野の方まで幅広く参加いただいていることがこの会の大きな特徴です。二〇〇五年六月にNPO法人に改組し、社会的に益々その活動が期待されるようになりました。この十年まさに手作りで事業を立上げ、運営してきたスタッフの苦勞に敬意を表したいと思います。

また訪問ツアー、体験学習会等において現地生産者の方々には快く農場・作業場を開放いただき心よりお礼を申し上げます。そして会の活動を永く支えてくださった会員の皆さまに重ねて深くお礼申し上げます。

私たちがこの会を立ち上げた十年ほど前は、まだ「食育」について関心があまり高くない時期でした。「食」「学校給食・容器」「食品添加物」などが関心の的でした。私たちの食育講座は「食

の後ろ側」を知ってもらおう講座で子どもたちは食べ物を通して生産から消費・環境について学んでいます。「食は命をいただくこと」「多くの人の手が関わっていること」を現場の農業生産者や漁師、流通業者の方々が講師として子どもたちに直接語っています。食育講座には毎年沢山のお子さんが参加して、目を輝かせて調理・講義に取り組み、ここから得た知識や感動を家族に伝えていることでしょう。家族の食意識を変えるきっかけになることを期待しています。

北海道が主生産地である農産物の自給率・地場農産物を見直すきっかけとしてトラストがスタートしました。産地限定の大豆は生豆・味噌に加工し、小麦はパン、うどん、ラーメン、お菓子に姿を変え、参加者の手許に「農業情報」と共に届けられています。また、生産・製粉・加工流通・消費まで巻き込んだ小麦トラストは、全国初の試みとして高い評価を得ております。

今、世情を騒がせている表示偽装・薬物混入など、食品の安全・安心についての問題が次々と明らかになっています。私自身、八年前に会社勤めを終えて、北海道で果樹園を買い取り生産者側になりました。一年一作の農産物を売る立場に立つてみると、食の信頼あってこそ当たり前、何よりも大事な基本だということがよくわかります。

会が食の安全・安心を早くから取り上げ、この十年間運営してきたことは社会的に意義があることだったと思います。私たちの活動は手作りの決して大きな規模とは言えない運動ですが、毎年続けることにより大きな手応えを感じることが出来ます。

これからも会員の皆さまと手を携えて食育・トラスト・フォーラムなどの活動を充実させていきたいと考えています。